

# R3「学力向上対策3つの提言」推進拠点校の取組 及び 成果と課題 ① (日田市立北部中学校)

## 重点的取組 【提言1】

### 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底

#### <学力向上に向けて重点的取組に上げた理由>

生徒アンケート「授業での発表の際、理由をつけて発表できたか」について、「よくできた」:28%、「だいたいできた」:35%であった。肯定的回答の数値が高くない理由として、授業で何を考えればよいか分からない生徒がいることから、新大分スタンダードの徹底の中で生徒に考える視点を与えることが課題ととらえ、「提言1」を重点的取組とした。

## 取組の具体

### ①授業改善の取組について

- 学力向上プランの共通理解  
※「学校評価4点セット」の目指す資質・能力との関連を確認

<ねらいの記載方法>全体で共有

- A 学習内容
- B 学習活動(教科による見方・考え方)
- C 付けたい力

### ○学期に1回OJT研修実施

- ・新大分スタンダード
- ・略案作成
- ・本時案例に関する協議

<説明のさせ方(例)>全体で共有

「知識・技能」の授業  
今日のポイントに〇〇とあるので、  
□□だと思います。  
「思考・判断・表現」の授業  
ポイントを活用とすると、〇〇と考えられるので、□□だと思います。

### ②互見授業・授業研究の取組について

#### ○互見授業

- 1学期:簡易略案を作成し、互見授業  
※「ねらい」に重点、略案等作成における相談体制構築
- 2学期:校内授業研究会前に合わせて互見授業週間を設定

#### ○授業研究

- 「知識・技能」習得時における「ポイントカード」使用
- 「思考・判断・表現」の授業における「見通しカード」使用

## 成果と課題

### <成果>

- 取組方法を細かく全体提案することで、組織的に実践できた。
- 研究の視点を明確にし互見授業や授業研究会を実施することで、自身の授業改善につながるような取組にできた。
- 若手教員に対して、新大分スタンダードや研究の取組とつながるように、OJT研修を計画・実施した。



OJT研修の様子

### <課題>

- 2年間で組織的に取り組む体制が構築できたので、今後は教師の授業改善を生徒の学力向上につなげて、さらなる質の向上を目指していく必要がある。

## その他の取組 【提言2】

### 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築

#### 取組の具体

- ①「タテ持ち」の取組について
  - 数学で意識したタテ持ちを実施  
→各学年の主担当を決め、指導法共有や互いに相談できる体制を構築
  - 各クラス担当者会議開催  
→学級担任、各学級に携わる教科担当の連携強化
- ②「教科部会」の取組について
  - 数学・英語は週1回、他教科は月1回実施  
(各学力調査分析、単元テスト分析、振り返りシート共有)

#### 成果と課題

- <成果>
- タテ持ちや教科部会の取組を、若手の人材育成やOJTにつなげることができた。
  - 市教委と連携し、音・美・技・家について、3提言の授業を市内に公開した。
  - 定期テストを単元ごとにつけたい力を意識した「単元テスト」に変更し、教師の作問力及び授業力の向上に取り組めた。
- <課題>
- 単元テストにおける教師の作問力やつけたい力を明確にした授業について、さらなる質の向上が必要である。

## その他の取組 【提言3】

### 「生徒と共に創る授業」の推進

#### 取組の具体

- ①生徒による授業評価の取組について
  - 授業評価アンケート実施  
※5教科:学期2回、技能教科:学期1回
- ②学習目標の取組について
  - 各学級ルーム長、副ルーム長が各学級の課題を出し合い、学習集団としての目標設定・学年全体で共有・振り返り
- ③学びに向かう学習集団づくりの取組について
  - 目指す授業像に関するアンケートを実施し、変容について振り返り活動を実施

#### 成果と課題

- <成果>
- 授業アンケートの自由記述欄に記載された生徒の要望をもとに、教師の授業改善につなげることができた。
  - 学習目標を設定することにより、生徒の学習に対する意識が高まった。
- <課題>
- 学年が上がるにつれてよりよい学習目標を創り上げる意識が必要である。またこの取組を通して、生徒が自ら学びに向かう姿をさらに目指す必要がある。